

令和5年度第2回舞鶴市文化振興審議会会議録(要約)

日時：令和5年11月29日(水)10:30~12:00

場所：舞鶴市役所 別館6階 大会議室

出席：(委員) 中川委員長、直田副委員長

上杉委員 (Zoom)、江上委員、小森委員、鈴木委員、立道委員

田中委員

(事務局) 福田部長、三方室長、奥本館長、松本担当課長、後係長、

佐藤

会議内容：

1 あいさつ (中川委員長)

2 議題

(1) 令和6年度の事業計画(案)について【資料1】

(2) 令和5年度事業状況報告について【資料2】

委員からの主な意見等：

- 市民に運営を委託する事業について、受託できる団体が増えるのが望ましい。育てる視点を持って事業を進めること。同一団体への委託を継続するのではなく、団体が将来的に自立して事業実施できるよう導くこと。
- 市が共催している事業も、市が共催しなくても各団体で実施できるようになっていかなければいけない。若い世代に繋げていくという意識を各団体が持つことが大切。
- 子ども達に対して長年様々な事業を実施しているが、今後はその投げかけを子ども達自身が社会に還していけるよう、発展的な事業展開が必要だと感じる。そのためには学校に負担をかけないように、アートディレクター等が必要。
- 各事業において参加者や関係者等にアンケートを取るなど、市民の意見を吸い上げることが必要。
- 障害者「向け」の事業ではなく、「@@@@@の配慮をしている」と説明することで相互理解を深められるような事業を実施してほしい。
- 地元のコーディネーター人材育成のため、アートコーディネーター等の育成講座を事業化するべき。
- 自己プロデュースにより活動しているアーティストを支え、受け手と繋ぐことが出来る人材が必要。NPOとして活動出来ればなお良い。
- 文化事業について知らない市民がまだまだ多いことが課題。文化に触れていない人にどう展開していくのが大切。